

【一】 次の——線部について、漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直さない。

- ① 古くから養蚕が行われている。
- ② 会社を買収する。
- ③ 奮起して敵に立ち向かう。
- ④ 暖かみのある色。
- ⑤ 目が肥えている。
- ⑥ 君は命のオンジンだ。
- ⑦ トウブンの取り過ぎに気をつける。
- ⑧ ヒニクを言われる。
- ⑨ 反射的に一歩シリゾク。
- ⑩ 弟はまだオサナイ。

【二】 次の問いに答えなさい。

問一 次の1～3の——線部と同じ種類・用法のものを後の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- 1 去年の台風で大きな被害が出た。
ア ここは静かで自然が豊かだ。
イ 車でキャンプに出かける。
ウ 病気で学校を休んだ。
エ 近所の川で友達と遊んだ。
- 2 先生が生徒を引率される。
ア 故郷のことが思い出される。
イ 君が学級委員に選ばれるのは当然だ。
ウ 浜辺で潮風に吹かれる。
エ 市長も参加されるはずです。
- 3 兄はいつもスマホばかり見ている。
ア 準備が整い、あとは出発するばかりとなった。
イ 母が来るのを改札口で三十分ばかり待った。
ウ 起きたばかりで、顔も洗っていない。
エ 今にも泣き出さんばかりの顔をしている。

問二 次の1～4が慣用句になるように□に当てはまる漢字一字を、下の()の中の意味を参考にして、それぞれ答えなさい。

- 1 □の知らせ。(何かよくないことが起こりそうな予感。)
- 2 □を売る。(むだ話をして仕事をなまける。)
- 3 □を洗う。(悪い仕事や行動をやめること。)
- 4 □に流す。(過去のことをすべてなかったことにする。)

問三 次の1～3の——線部はどこにかかりますか。——線部アはオの中から最も適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- 1 すでにバスは発車していて母はア イ ウ エ オ 少しかおくれた。
- 2 おそらくこれが解ける人はどこにもいないだろう。
- 3 あまりにも感動的なア イ ウ エ オ 場面イ ウ エ オ みんなの涙が止まらない。

[三] 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(句読点や記号も一字にかぞえること。本文の行末にある数字は行数です。)

父の仕事の関係でアメリカで生まれ育った十七歳の真辺栄美は、両親の帰国に伴い、日本の高校に転校することになった。本文は転校初日、教室で最初に話しかけてきたクラスメートの菜都美ら四人に誘われ、放課後ハンバーガーショップに寄って話をしている場面から始まる。

「クラスの男たち、どよめいてたよね。これからあれこれちよつかい出されて、めんどくさいよー」

なるほど、わたしが自己紹介したときに上がった「かわいー」という声は、紹介の内容ではなく見た目に向けられたものだったのか。今頃理解した。

「アスカベくんでさえ興味持ってるみたいだったもんね。アスカベくんファンの女の子に、これから睨まれちゃうかもよ」

「アスカベくんって、あの身長の高い？」

男の子でただひとり記憶に残っている人だったので、ついその話題に食いついてしまった。発言した女の子は、「そうそう」と頷く。

「やっぱり栄美も憶えてるのね。彼、ダントツでかっこいいもんねー」

「見た目もかっこいいし、優しいし、頭もいいし、それに他の男子みたいに脂ぎってないしね」

「あ、彼は頭いいんだ？」

「栄美はアメリカでなんて呼ばれてたの？」

菜都美がまた訊いてくる。わたしは飛鳥部くんから話題が逸れてしまったのを残念に思いつつ、答えた。

「エイミーって呼ばれてた。パパが、アメリカ人でも呼びやすいようにって考えてつけてくれた名前なの」

「なるほどー。じゃあ、あたしたちもエイミーって呼んでいい？」

「もちろん」

というわけで、わたしのニックネームはアメリカ時代と同じになった。エイミーと呼ばれるのは、**A** 慣れているのでなんとなく心地よかった。

こうしてわたしの日本での高校生活が始まった。パパがあんまり脅すから不安だったけど、実際はそんなに横並び意識が強いわけではなく、変に気を使う必要はなかった。みんな、わたしのアメリカでの話を聞きたがる。喜んでもらえればわたしも嬉しいから、なるべく自慢に聞こえないように気をつけながら質問に答えた。パパが抱いている日本人のイメージは、きっと古いのだと思った。

例えば飛鳥部くんは、明らかに目立った存在だった。クラスの中で、というだけでなく、学年全体での有名人らしい。飛鳥部くんの目立ち具合は、三日も経てばわたしにもよく理解できた。噂に違わずスポーツは万能だし、頭もいいのだ。授業中、ひとつの質問を何人かの生徒に答えさせて誰もわからなかった場合、先生は最後に飛鳥部くんを指名する。するとまるで事前に打ち合わせをしてあったかのように、飛鳥部くんは

2 解答を口にするのだ。まだ日本の授業に慣れていないわたしからすると、その様子は本当に尊敬に値した。

わたしはちよつとフアザコンの気味があるのか、頭のいい男の人が好きだ。見た目も好印象だったけど、頭がいいと聞いてなおさら点数がアップした。

「頭いいよー。学年でトップクラスだもん。その上、スポーツもできるのよ。パーフェクトな人って、アスカベくんみたいな人のことを言うのよねえ」

目を潤ませて、遠くの方を見つめる。この人もアスカベくんファンのようなのだ。

「アスカベくんって、トウモロローのウォールって書くの？」

この際だからと、わからないことは全部訊くことにした。わたしの質問に四人は

1 したけど、しばらくしてから爆笑された。

「違う違う。トウモロローのウォールって、意味わかんなかったよ。栄美、面白い。もしかして、天然？」

天然とはどういう状態を指す言葉なのかわからなかったけど、悪口ではなさそうなので笑って首を傾げておいた。菜都美が人差し指を立てて、空中に字を書く。

「飛ぶ鳥に部分の部で、飛鳥部。わかる？」

※3 ア・パート・オブ・フライング・バード？ おかしな名前という点では、トウモロローウォールと同じではないか。飛ぶ鳥の一部なら、翼ということなのかな。それなら、遠回しだけどすごく綺麗な意味

では、トウモロローウォールと同じではないか。飛ぶ鳥の一部なら、翼ということなのかな。それなら、遠回しだけどすごく綺麗な意味

では、トウモロローウォールと同じではないか。飛ぶ鳥の一部なら、翼ということなのかな。それなら、遠回しだけどすごく綺麗な意味

では、トウモロローウォールと同じではないか。飛ぶ鳥の一部なら、翼ということなのかな。それなら、遠回しだけどすごく綺麗な意味

では、トウモロローウォールと同じではないか。飛ぶ鳥の一部なら、翼ということなのかな。それなら、遠回しだけどすごく綺麗な意味

では、トウモロローウォールと同じではないか。飛ぶ鳥の一部なら、翼ということなのかな。それなら、遠回しだけどすごく綺麗な意味

では、トウモロローウォールと同じではないか。飛ぶ鳥の一部なら、翼ということなのかな。それなら、遠回しだけどすごく綺麗な意味

では、トウモロローウォールと同じではないか。飛ぶ鳥の一部なら、翼ということなのかな。それなら、遠回しだけどすごく綺麗な意味

では、トウモロローウォールと同じではないか。飛ぶ鳥の一部なら、翼ということなのかな。それなら、遠回しだけどすごく綺麗な意味

では、トウモロローウォールと同じではないか。飛ぶ鳥の一部なら、翼ということなのかな。それなら、遠回しだけどすごく綺麗な意味

では、トウモロローウォールと同じではないか。飛ぶ鳥の一部なら、翼ということなのかな。それなら、遠回しだけどすごく綺麗な意味

「うーん、真辺さんですか。もちろん真辺さんにクラス委員ができないとは思いませんけど、まだ日本の生活にも慣れていないのに、いきなりクラス委員はちょっとかわいそうじゃないですか」

それまで口を出さなかった先生が、困惑^{こんわく}げにそう言ってくれた。そのひと声で、わたしはクラス委員になるのを免^{まぬ}れた。

飛鳥部くんは残念そうだったけど、意地悪でわたしを推薦したわけじゃないのは明らかだった。というのも、当の飛鳥部くん自身がクラス委員になったからだ。わたしと一緒に^{いっしょ}にクラス委員をやりたいと考えてくれたらしい。授業についていくのが精一杯^{せいいつぱい}のわたしにクラス委員なんてとてもできないけど、飛鳥部くんがそんなふうに思ってくれたのにはちよつとドキドキした。

クラスが陰湿^{いんしつ}じゃないと思つたのは、わたしの観察力不足だったかもしれない。そう感じたのは、ゴールデンウィークが明けた頃^{ころ}のことだった。

わたしは転校初日から、その人の存在^{そんざい}には気づいていた。休み時間になつても窓際の席にひとりでぼつんと坐^{すわ}つて、誰とも話そうとしない姿は目立^{めだ}つていた。でも、孤独^{こどく}が好きな人も世の中にはいる。そういう人も容認^{ようにん}できる社会が、本当に成熟^{せいじゅく}した社会なのだと考えていた。それが一カ月も経つと、彼が好きでひとりでいるわけじゃないのではと思えてきた。彼と接^せするクラスメートたちの態度が、どうも微妙^{みょうびょう}なのだ。自分から話しかける人はいないし、逆に近づかれるのを露骨^{こつこつ}に避^さけている人までいる。体育の授業でチームを組んで球技をするときは、いつも端^{はし}つこでぼつんと立^たつていて、彼の方に球はまったく回^{まわ}らなかった。授業でプリントを配^くる際も、前の席の人は振り向きも

女子コートに戻^{もど}し、また体育坐^{すわ}りをした。その男子のことは、特に気にかけていなかった。

話しかけられたのは、授業が終わつて体育館を出ようとしたときだ。後ろから「真辺」と呼び止められ、振り返る。するとそこにはさつきボールがぶつかりそうになつた男子——小金井くんがいた。小金井くんはなんだかぶすつとした様子で、わたしをじつと見ていた。

「何？」

用件^{ようけん}がわからなかつたので訊^きき返すと、小金井くんは厚^{あつ}い唇^{くちびる}を尖^{とが}らせるようにしてから、ぼそりと言^いつた。

「さつきはありがとう」

「いいえ、どういたしまして」

当たり前のことをしただけなので、改めてお礼を言われるとは思わなかつた。小金井くんはなんだか立ち去^さりがたそうに少しもじもじしていたけど、結局何も続^つけずにぺこりと頭を下^さげて先に体育館を出ていった。お礼を言ってもらえて、わたしも嬉^{うれ}しかった。

それが小金井くんと初めての会話^{かいわ}だったけど、そのことをきつかけによく話すようになったわけでもなかつた。相変^{あへ}わらず小金井くんはいつもひとりで、窓の外をぼんやり眺^{なが}めている。その姿はどこか寂^{さび}しげに見えて、ちよつと気^きになった。三年六組はクラス全体がとても仲^なが良かっただけに、小金井くんだけがそこからはみ出した一点の染^しみのようだった。

せずに投^なげるように彼に渡^{わた}している。どうして彼はそんな扱^{あつか}いを受けているのかと、わたしは不思議に思^{おも}つた。

（ 中 略 ）

わたしが小金井くんと初めて言葉^{ことば}を交^{まじ}わしたのは、体育の授業のときだった。その日は体育館で、男女に分かれてバレーボールをやつていた。男女ともに三班編成で、ふたつの班が対戦^{たいせん}しているときはひとつの班が見ているというローテーションだった。そのときわたしはお休^{やすみ}みの班^{はん}だったから、コートの外に出て体育坐^{すわ}りをしていた。

女子のコートでは、鋭^{すみど}いラリーが続^{つづ}いていた。うちのクラスには、バレーボールがうまい女の子が揃^{そろ}つていたのだ。ひとりがトスを上げ、もうひとりがジャンプして反^そり返^{かへ}る。でもそのスパイクは当たり所が悪^{わる}く、コートを大きく逸^はれて男子の方へと向^{むか}つた。

ボールが飛^とぶ先には、男子がひとり坐^{すわ}つていた。なのにその男子は、他のことでも考えているのかボールにまるで気づかなかつた。危^{あや}ない、とわたしは警告^{けいこ}したかつたけど、思い浮^うかん^だ言葉^{ことば}は「Watch out」^{※7}だった。まだとつさの場合はうまく日本語が出てこない。たまたまわたしは男子コートのそばに坐^{すわ}つていたので、声を出^こすより先に動^{うご}いていた。

手を伸^のばして、ボールを受け止^{とど}めた。そのときの音で初めて男子は自分に迫^{せま}る危機^きに気づいたらしく、呆^{ぼう}然^{ぜん}とわたしを見上^{みあ}げている。わたしがボールの軌道^{きどう}を遮^さらなければ、顔面^{けんめん}を直撃^{ちくげき}していただろう。わたしはやつと日本語を思^{おも}いついて、「危^{あや}ないよ」とだけ言^いつた。

「ごめんね」

スパイクを打^うつた女の子は、大きな声で謝^{あや}つた。でもそれは男子に對^{たい}してではなく、わたしに謝^{あや}つていようだった。わたしはボールを

※1 ファザコン……子供が父親に對^{たい}して強い愛着^{あいしやく}を持つこと。

※2 トウモローのウォール

……「トウモロー」は明日^{あす}、「ウォール」は壁^{かべ}の意味^{いみ}。

※3 ア・パート・オブ・フライング・バード

……直前^{ちくぜん}の「飛^とぶ鳥^{とり}に部分^{ぶぶん}の部^ぶ」を英語^{えいご}に訳^{わけ}した言葉^{ことば}。

※4 弊害^{へいがい}……悪い点^{てん}。

※5 その人……小金井くんのこと。

※6 露骨^{こつこつ}に……あからさまに。

※7 Watch out……「気^きをつけて」の意味^{いみ}の英語^{えいご}。

（貫井徳郎『明日の空』集英社より）

* 本文は設問の都合上、一部表記を改めてあります。

問一 (1) ・ (2) に当てはまる言葉として最も適当なものの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|-------|--|--|
| 1 | | | |
| ア | あぜんと | | |
| イ | きよとんと | | |
| ウ | ぶすつと | | |
| エ | うんざりと | | |
-
- | | | | |
|---|-------|--|--|
| 2 | | | |
| ア | すらすらと | | |
| イ | ぶつぶつと | | |
| ウ | いそいそと | | |
| エ | うきうきと | | |

問二 A ・ B には体の一部を表す言葉が入ります。最も適当

なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 手 イ 口 ウ 顔
エ 目 オ 耳

問三 線部①「やっぱり栄美も憶えてるのね」とありますが、この言葉から読み取れる友人の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 目立ってかつこい飛鳥部くんのことは、転校してきた栄美の印象にも真つ先に残ったのだなと納得している。
イ 自分が好意を寄せている飛鳥部くんのことをいち早く栄美が目をつけていたので、警戒しなくてはいけないと感じている。
ウ 一緒に話している自分たちより、まだ話したこともない飛鳥部くんを栄美が気にしていることを不満に思っている。
エ 飛鳥部くんがすでに栄美に興味を示していたので、栄美が彼の好意に気づいているかどうかを確認したいと思っている。

問四 線部②「わたしは飛鳥部くんから話題が逸れてしまった

のを残念に思いつつ、答えた」とありますが、なぜ栄美は話題が逸れてしまったのを残念に思ったのですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分のアメリカでの呼び名など、あまり個人的なことを聞か
れたくなかったから。
イ 気になり始めた飛鳥部くんのことをもっと知りたいと思っ
ていたから。
ウ 飛鳥部くんの名前に込められた本当の意味を知りたいと思っ
ていたところだったから。
エ 自分のおかしな発言のせいでみんなが飛鳥部くんの話をやめ
てしまったと思ったから。

問五 線部③「なるべく自慢に聞こえないように気をつけなが

ら質問に答えた」とありますが、栄美がこのような答え方をした
のはなぜですか。その理由を三十字以内で答えなさい。

問六

——線部④「そんな飛鳥部くんを見てわたしも、遠慮するのはやめた」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア いつも注目を集めている飛鳥部くんに対して、シュートの技術でなら自分でも張り合えると感じたから。
- イ いつも堂々としている飛鳥部くんに影響され、たとえいじめられても自分に素直になるべきだと思ったから。
- ウ 転校生だからという理由で、いつまでも控え目に振る舞うのは無意味なことだと思うようになったから。
- エ 飛鳥部くんがどれほど目立っても、誰からも嫌われたり、いじめられたりしていないことに気づいたから。

問七

——線部⑤「わたしは転校初日から、その人の存在には気づいていた」とありますが、栄美から見た「その人」の印象はその後どのように変化していききましたか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 初めはその人が周囲から嫌われているのだと思っていたが、実は彼の方が周囲の言動をよく思っていないために自ら距離を置いていたのではないかと思うようになった。
- イ 初めはその人とも仲良くしたいと考えて積極的に話しかけていたが、彼が周囲から嫌われていることに気がつき、自分もあまり関わらないようにしようと決めた。
- ウ 初めはその人が一人であることを好み、周囲もそれを受け入れているのだと思っていたが、しだいに彼が周囲から避けられているのではないかと感じるようになった。
- エ 初めはその人のことをあまり気にしていなかったが、周囲と群れがち日本人の中にいて一人で行動することを恐れない彼の様子にだんだん気になるようになった。

問八

——線部⑥「小金井くんだけがそこからはみ出した一点の染みのようだった」とありますが、転校してきた栄美は自分のクラスにどのような様子を感じ取っていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 初めはクラスメイトがそれぞれ自由に活動しているのだと思っていたが、クラスには人気者を頂点にした見えない序列が存在していて、その序列の下の方に位置する者はものも言えない状態にあると感じ取っている。
- イ クラスメイトが活躍すればそれを賞賛し、孤独を好む人がいればそれを容認するような成熟した社会が構築されていると思っただが、実はこのクラスの中にも陰湿な仲間はずれが行われていることを感じ取っている。
- ウ 明るく活発な生徒が多く、転校初日からすぐにクラスメイトと仲良くなれた一方、一度友人関係をこじらせてしまうとその関係を修復するのは簡単ではなさそうで、日本の学校で生活していくことの難しさを感じ取っている。
- エ クラスにはさまざまな個性の持ち主が存在しており、その個性が許容される社会こそが良い社会だと思っていたが、このクラスには特別な個性をことさらに取り上げて楽しもうとする雰囲気があることを感じ取っている。

そもそもあらゆる種は、つねに絶滅の危険にさらされています。

1960年代にアメリカの動物学者であるジョージ・イヴリン・ハッチンソンが『The ecological theater and the evolutionary play』という本で書いたように、さまざまな生物たちは、生態学的な環境要因のシアター(劇場)のなかで「進化の劇」を踊っています。

が、それは同時に、強力な捕食者や激しい攪乱(生態系や個体群の環境を変える出来事)などによる絶滅の危険性にさらされているというところでもあるわけです。

当たり前のことかもしれませんが、やはり環境への対応が、種の存続のカギをにぎっているんです。

そこで求められているのは、「レジスタンス」と「レジリエンス」という2つの力ですね。

レジスタンスは「抵抗」を意味し、病気や捕食者などがやってきたときに、数を減らさずに対応できる力のこと。いわば、強さや耐性といった硬さの概念です。

もうひとつのレジリエンスは、「回復」を意味し、なんらかの攪乱を受けて、移動したり、行動が変化したときに、それをもとに戻す力のこと。復元力、弾力、柔軟性、しなやかさといったやわらかさの概念です。

①種の持続可能性を高めるには、この両方の力が必要なんです。

ば、絶滅は日常的な出来事です。生態学ではこれを「背景絶滅」と呼んでいます。

ひとつの種の寿命は、だいたい100万年以上だといわれていますね。

※2こういうとずいぶん長いスパンのように思えるかもしれませんが、約45億年の地球の歴史から見れば、かなりの短命です。新しい種も出現してくると考えると、存在する種は相当頻繁に入れ替わっています。

ほかに、そのときに存在する種のうちの大多数が絶滅する「大量絶滅」も起こります。化石を見るかぎりでは、地球上ではこれまで5回の大量絶滅が起こっていて、そのつど、60〜80パーセントの種が失われています。

でも、この5回で大量絶滅した種の数を含んでも、長い歴史のスパンのなかでは、じつはこれまで絶滅した種の総数の数パーセントを占める程度にすぎません。背景絶滅する種の数、そのくらい多いんです。

③ちなみに、いまは6回めの大量絶滅がすでに起こりはじめていて、その速度はこれまでの大量絶滅の約10倍、背景絶滅の数万倍ともいわれています。

最大の原因は、生態系を大きく変えるような土地利用です。ほかに、外来種の侵入や気候変動、汚染物質、乱獲も大きな影響を及ぼしていると考えられていて、大量絶滅の5大要因と呼ばれています。

ひとことでいえば、原因は人間にあるということです。人間のような外敵も含めて、種の存続は環境に左右されるんです。

ただ、自然界では、自分たちがどんな環境下に置かれるのかを、あらかじめ予測することはできません。予想もしない変化が、予想もしないタイミングで起こります。

※1それだけに、新しく起こる環境の変化に対してレジスタンスとレジリエンスに長じたパーソナリティーを、前もって備えておくことは不可能に近い。

でも、種内の多様性が高ければ、突然の環境の変化にも対応できる可能性が高まります。強力な捕食者が現れても、それに対抗できるパーソナリティーをもった個体が存在する可能性が増すでしょうし、攪乱に対して復元力を発揮できるパーソナリティーをもった個体が存在する可能性も高まる。

②確率論的な話として、多様性を備えている種のほうが持続可能性が高いんです。

※3もともと、絶滅といういかにも希少な出来事のようなのですが、じつはそうめずらしいものではありません。

いまの地球上には、わかっているだけで200万種、実際には1000万種も2000万種も存在するといわれていて、適者生存の大原則のもと、そのなかで、日夜、生存競争がくり広げられています。

当然、競争で負けた種はつぎつぎと滅びているわけで、いってみれば

不思議なのは、それほどシビアな生存競争がおこなわれているにもかかわらず、多様性が維持されていることです。

冒頭でもお話ししたように、生態系のなかでは、種と種のあいだにはさまざまな相互作用があります。サンゴと褐虫藻のようにお互いにポジティブな関係を保って共生するケースもありますが、どちらかといえど目立つのは、文字どおりの「食う、食われる」という関係です。原則からいえば、生存競争の末に、もともと強い種だけが勝ち残って、ほかはすべて絶滅してもいいはずなんです。

※4ところが現実には、他の種とのあいだに協力関係を結んでいるわけでもなさそうなのに、個体数は少なくてもなぜだか絶滅しない種がかならず存在する。

ぼくの専門でいえば、プランクトンにも、どこの湖にも少数ながらかならず存在する種があります。勝つわけではないが、負けずにほそぼそと生き残っているというイメージで、いうまでもなく、こういう存続の仕方が可能だからこそ、多様性が維持されるわけです。

※5しかしなぜ、個体数が少ないいま、種を存続させることができるのでしょうか。

これについては、「それぞれの種にとって、いつかはどこかで有利な状況が存在する」という説明があります。

たしかに競争すれば有利なほうが生き残るのですが、それはあくまでひとつの状況下での話です。状況が異なれば、勝者もまた異なるはずです。

※6(1)捕食者という脅威に対しては、Aという種は有利かもしれない。でも、病気という別の脅威に対してBが有利であれば、両方の種が生き残る可能性が出てきます。

つまり、生態系のなかの複数の種にそれぞれ有利な状況があれば、多様性は維持される、というわけです。

当たり前のことかもしれませんが、置かれている状況に適した個性を備えている種が存続するということ。

ただ、適応をはかるモノサシはひとつではありません。多様なモノサシがあるからこそ、多様な種が存続しうるんです。

もちろん、生物たちも、置かれている環境や状況をただ手をこまねいて受け入れているわけではありません。さまざまに性質や行動を変えて適応を試みています。

種の存続を左右するという意味で、もつとも大切な営みである繁殖ひとつをとっても、外敵の多い環境下で一度に数えきれないほどたくさんの卵を産む種もあれば、安定した環境下で少数の卵を確実に育てる種もある。

あるいは、寿命の長さを背景に、繁殖の回数を重ねる種もあれば、寿命の短さを補うべく、一度の繁殖に大きなエネルギーを費やす種もある。

いずれも、最初からそうだったわけではないでしょう。

環境や状況に合わせて、可塑性（生物個体が環境条件に応じて形態、構造、行動、生理的性質などを変化させる能力）を発揮したり、突然変異によって新しい有利な性質をもつ個体が生まれたりして、適応を試みた結果です。

⑤ 危機への対応の面でも、それは同じです。植物や無脊椎動物のなかには、捕食者などによる危機を環境シグナルとして感じると、遺伝子レベルで調節をはかって防衛を試みるものもあります。

95

100

105

110

115

たとえば、通常は緑色の身体をしている生物が、捕食者がそばにいると突然茶色に変色したり、ふだんは動いていない遺伝子のスイッチを入れて遺伝子発現の調節をする。

脳をもつ生物の場合なら、遺伝子レベルの調節ではなくとも、危険を認識して行動を変えたり、性質を変えたりします。

どちらも別の種といえるレベルでの変化ではありませんが、種内変異の範囲で個性を発揮し、状況への適応を試みるんです。

では、人間はどうでしょうか。

ここ100年あまり、ぼくら人間は経済活動に特化して、そこに効率的にエネルギーを注いできました。

じつは自然界の生物たちは、こんなふうに活動を特化したりはしません。もし状況が一変したときに、取り返しがつかないことになりかねないからです。

⑥ ならば、なぜ人間はそんな無茶をすることができたのか。

それは長期にわたって、環境が非常に安定していたことが大きいでしょうね。

（2）この先、同じように安定した環境がつづく保証はどこにもありません。そう遠くない未来に大きな気候変動が起こるかもしれませんし、経済のシステムが大きく変化する可能性もあります。

おまけに、すでにお話ししたとおり、変化したあとの環境をあらかじめ予測するのは不可能に近い。変わってみたいとわからないというのが本当のところでしょう。

そこで生きのびるためにも、やはり人間という種にも多様性が必要なのではないかと思えますね。

120

125

130

135

140

⑦ 個性を重視しようという風潮が社会に根強くあるのも、もしかしたら、生物として、本能的になにかを感じていることの表れかもしれません。

（吉田丈人「個性とは、種の持続可能性を高めるために必要なもの」KADOKAWAより）

* 本文は設問の都合上、一部表記を改めてあります。

※1 パーソナリティー……個性。

※2 スパン……期間。

※3 シビア……厳しいさま。

※4 褐虫藻……サンゴやイソギンチャクなどの細胞内で、それらの生物と共生する藻類。

※5 ポジティブ……良い作用を及ぼすこと。

※6 無脊椎動物……背骨や脊椎を持たない動物。

※7 シグナル……信号。

問一（1）・（2）に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ そして

ウ まさしく エ たとえば

問二 線部①「種の持続可能性を高めるには、この両方の力が必要なんです」とありますが、「この両方の力」の内容を具体的に表現している部分を文中から三十字以上、四十字以内で二つぬき出し、初めと終わりの五字をそれぞれ答えなさい。

問三

——線部②「多様性を備えている種のほうが持続可能性が高い」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 新しく起こる環境の変化をあらかじめ予測することができない以上、多様な個性を持つ仲間同士が協力し合って環境の変化を乗り越えていくことでしか種の存続は図れないから。

イ さまざまな環境の変化に直面しても、種の中に復元力を発揮できる個体が存在していれば、その種にとって望ましい環境を取り戻すことができるから。

ウ 種の中に多様なタイプがそろっていれば、予測できないさまざまな環境の変化があつたとしても、その変化に対応できる個体が存在する確率が高まるから。

エ 予測することのできない多様な環境の変化に抵抗しながら、ときには柔軟にその変化を受け入れていくような二面性を持つた種の生命力こそが最も強いと言えるから。

問四

——線部③「いまは6回めの大量絶滅がすでに起こりはじめていて、その速度はこれまでの大量絶滅の約10倍、背景絶滅の数万倍ともいわれています」とありますが、現在起こっている「6回めの大量絶滅」の速度がこれほど速いのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 急激に増え過ぎた生物の生存を可能にするだけの土地や食糧が、もはや地球上には存在しないから。

イ 人間が行う活動によって、もともとあつた生態系や自然環境が急速に変えられているから。

ウ 地球環境の急激な変化に伴い、昔から存在してきた生物が生きにくい状況になってきているから。

エ 人間の環境保全のための努力と、生物の絶滅の速度との差がますます開いているから。

問五

——線部④「個体数は少なくてもなぜか絶滅しない種がかならず存在する」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 個体数が少なくなると他の生物と協力関係を結び、その生物と共生していくことで絶滅を免れる種も存在するから。

イ 勝ち目のない生存競争には参加せず、自分たちの種の限られた生活領域だけを守り、ひっそりと生きている種もあるから。

ウ 生物を取り巻く状況は千差万別であり、どのような種でも特定の状況においては生き残る可能性を持っているから。

エ 豊かな生態系の中では、すべての種にとって最適な自然環境が公平に保たれているから。

問七

——線部⑥「なぜ人間はそんな無茶をすることができたのか」とありますが、どのようなところが「無茶」のですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 人間は環境や状況が一変すれば絶滅する可能性があるにもかかわらず、経済活動に特化した生き方をしているところ。

イ 人間が経済活動に特化するあまり、自然を破壊し、多くの生物を絶滅へと追い込んでしまったところ。

ウ 人間は経済活動を重視し、新たな経済環境を生み出すことばかりこだわっているところ。

エ 人間が生物としての生存能力を劣化させてまで経済活動を重視してきたところ。

問六

——線部⑤「危機への対応の面でも、それは同じです」とありますが、「それ」とはどのようなことを指していますか。三十字以内で答えなさい。

問八

——線部⑦「個性を重視しようという風潮が社会に根強くあるのも、もしかしたら、生物として、本能的になにかを感じていることの表れかもしれません」とありますが、ここでの「なにか」とはどのようなことですか。その説明として最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えなさい。

(問題は以上です。)

ア 人間も多様な変化に対応できる能力を身につけなければ生きのびることができないため、他の生物の個性的な生き方に生存の手がかりを見出^{みいだ}そうとしているということ。

イ 今まで起こらなかった大きな変化が予想されている現在、あらゆる変化にも惑^{まど}わされない確固たる人間存在の証明を、他の生物に対して示すときが来たということ。

ウ 個性的な生き方こそが、これからの多様な変化の時代を他の生物よりも人間が長く生き抜^ぬくためには求められてくるだろうということ。

エ 環境の変化が予測困難である以上、種の存続の観点から他の生物と同様に、人間も個性という多様性を持つことが必要だということ。

問九

あなたが個性的だと考える歴史上の人物を一人挙げ、その人の個性が世の中にどのような貢献をしたかを具体的に答えなさい。

